生活の自立と創造を目指す技術・家庭科の授業づくり
－生活に生きてはたらく力を身につけるための一試み－

海南市立第三中学校
教諭　田 上 智 世

1　研究のねらい

(1)　主題設定の理由

技術・家庭科（家庭分野）（以下「家庭科」という。）の授業は、学習したことが日常の生活の場で「生きてはたらく力」となることをねらいとしている。しかし、家庭科で学んだ知識や技術を生活に生かそうとする生徒は少ないように感じる。家庭環境や社会生活の変化などにより、生活の中で生じてくる課題に気付かない生徒、あるいは気付いてもその解決を人任せにしてきた生徒が多いのではないかと推察する。生活の自立を目指し主体的に生きていく生徒を育てるためには、生活の中で生じた課題に対して、自分の判断で解決できる能力を養わなければならない。

さらに、学習指導要領では、生活という視点に立って衣食住等の各項目を関連させながら家庭の仕事としてのつながりを意識させるといった生活を総合的にとらえた学習を展開することが重視されている。また、基礎的な知識と技術を習得させるための実践的・体験的活動の充実も課題となっている。

(2)　アンケート調査について

検証授業に先立ち、家庭科を学習することによって身につくと思われる知識や技術に対する生徒の考えや、家庭科に対する生徒の意識について調査した。

主題に迫る題材の開発・改善に生かすことを目的とした14項目についてアンケート調査を実施し、その結果から各項目に対する生徒の興味・関心を探った。

ア　調査の対象

海南市立第三中学校　第２学年90名　第３学年95名

イ　調査の実施日

平成16年６月25日

ウ　調査結果

「家庭科は実習が多いから楽しいか」という質問に対しては、楽しいと答えた生徒が75％を占めた。「実習が多いから」という言葉を入れ、質問内容を限定したが、調理実習や実験などの活動を効果的に取り入れることによって、生徒に興味・関心を持たせることができることを再認識した。「家庭科で学習した内容が毎日の生活に役立つか」という質問に対しては、84％の生徒がそう思うと答えた。また、「家庭科は将来の生活に役立つと思うか」という質問に対しては、91％の生徒がそう思うと答えた。このことから、家庭科で学習したことが将来役立つであろうと考えている生徒が多いことが分かった。また、学習した内容が生活の中で生かせているかどうかについては、「食事が作れるようになるか」や「栄養のことを考えるようになるか」などの食に関する質問では、７割を超える生徒がそう思うと答えていた。しかし、衣と住に関する質問では、そう思うと答えた生徒は５割程度であった。

エ　考察

アンケートの結果から、生徒は、家庭科の学習内容が現在及び将来にわたって役立つであろうと考えていることが分かった。しかし、実際に学習したことを生活の中で活用しているかどうかについては、十分生かせているとは言い難く、学習内容と生活の結び付きの弱さを感じた。したがって、生徒に対し知識や技術を確実に習得させるとともに、それらの知識と技術をどのような時にどのようなところで生か

せるかということを授業で示す必要があると考える。
　以上のことから、生徒の日常観察やアンケート等を使って分析することで素材を探り、実践につながる体験的な学習を取り入れた題材を改善・開発していきたい。さらに、その指導方法を工夫することにより、生活に「生きてはたらく力」を身につける方法を考察していきたいと考えた。

２　研究の仮説

本研究は、次の仮説を設定し、検証することとする。

生活の中での実践につながる体験的な学習を組み入れた題材の設定を行い、評価を生かした指導を工夫することによって、自分の力で課題を解決しようとする力がつくであろう。

３　研究の内容と方法

(1)　検証の視点

研究仮説を検証するにあたり、次の３つの視点をおく。

視点①　体験的な活動を組み入れた指導の工夫により、学習内容を自分の生活と関連させて考える力が高まったか。

視点②　生活を総合的にとらえた題材設定の工夫により、学習を生活に生かそうとする力が高まったか。

視点③　評価を生かした指導の工夫により、自分の力で課題を解決しようとする力が高まったか。

(2)　検証授業計画

ア　対象　海南市立第三中学校　２年生

イ　題材名　上手な服選び

ウ　指導計画（全４時間）

	指導目標	学習活動
第１時	衣服の購入体験を通して、布の機能に着目し、表示を活用することの大切さに気付く。	・衣服の購入ポイント私のベスト５を記入する。 ・５種類のＴシャツを使って購入体験をする。
第２時	布の成り立ちを知るとともに、布を構成している繊維の種類や特徴を理解する。	・組成表示と取り扱い絵表示の見方を学習する。 ・布の成り立ちや繊維の種類と特徴を実物を見ながら学習する。
第３時	綿とポリエステルの吸湿性の違いについて理解する。	・綿とポリエステルの吸湿性の実験をし、結果を比較する。 ・実験結果を参考にして綿とポリエステルの衣服について考える。
第４時	通信販売での表示活用の大切さに気付く。	・衣服の購入ポイント私のベスト５を記入し、第１時に記入した内容と比較する。 ・カタログを参考に表示を確認し、写真から受ける印象との違いをまとめる。

エ　指導にあたって

生徒の周りにはたくさんの情報や品物が溢れ、衣服についても「安くて良い」と

いうセールスポイントを掲げ、次々に商品が入れ替わっていく。このような社会の中では、生徒はＴＰＯに応じた衣服や機能性を考えた衣服よりも、流行やファッション性を重視した衣服を選択しがちである。

今回行ったアンケートでも、「衣服の購入時に、取り扱い絵表示や組成表示を参考にする」と答えた生徒の割合が、どの学年においても低かった。

写真１　　実験の説明

そこで、衣服本来の機能や個性に応じた着方に重点を置きながら、衣服を購入したり管理したりできるようになってほしいと願い、本題材を設定した。

研究の視点にかかわる工夫は、次の３点である。

①発展性を持たせるため、可能な範囲で学習指導要領に示されている内容や項目の枠を超えて指導計画を作成した。

②Ｔシャツを使った服選びや吸湿性の実験を取り入れるなど、体験的な活動を各所で導入した。

③授業中の観察やワークシート等で生徒一人ひとりの学習状況を把握しながら授業を進めた。また、授業後においても、家庭科で学習した知識や技術を日常生活で生かす場面があったかどうかを知るために実践ノートを活用した。

(3)　検証授業

ア　視点①にかかわる実践

(ｱ)　Ｔシャツの購入体験の授業（第１時）

学習活動	指導内容	評価規準
５種類のＴシャツを使って購入体験をする。	①レーヨン、ポリウレタン、ポリエステルの混紡糸の生地の薄いＴシャツ ②①と同じ素材で白いＴシャツ ③黒い飾り付きＴシャツ ④綿100％白いＴシャツ ⑤綿100％赤いＴシャツ ・それぞれのＴシャツの特徴をもとに、購入する、またはしない理由を書かせる。 ・繊維・布の種類・肌触り・手入れの方法に留意させる。	それぞれのＴシャツの購入する理由やしない理由を、Ｔシャツの特徴をもとに記入している。 （生活の技能）

生徒は、５種類のＴシャツに実際に触れながら、購入するとしたらどのＴシャツを選ぶか、またその理由は何かを話し合った。「このＴシャツは私が持っている物とよく似ているな」「襟の形が変わっているな」などと言いながらＴシャツを引っ張って伸縮性を確かめたり、表示を探そうとしたりする生徒もいた。実物から布の感触や伸縮性等の情報を得ることにより、それぞれのＴシャツの特徴をとらえることができたと考える。

写真２　感触を確かめている様子

しかし、次の購入条件を考える段階では、デザインや色を選択の理由として挙げる生徒が多かった。そこで、次に５種類

のＴシャツを準備した意図を説明するとともに、取り扱い絵表示や組成表示、サイズ表示に着目させ、各表示の見方や利用方法について説明した。その結果、ワークシートには、「今までデザインやサイズ、値段だけで買う買わないを判断していたけれど、表示もしっかり見て、購入後の手入れも考えて買わなければいけないことが分かった」「吸水性等の布の長所が分かる表示をもっと利用していきたい」といった感想が見られた。

(ｲ) 吸湿性の実験（第３時）

学習活動	指導内容	評価規準
綿とポリエステルの吸湿性の実験をし、結果を比較する。	・前時のワークシートを使って綿とポリエステルの特徴を確認する。 ・手だけを入れた時のナイロン袋内の湿度を測定させるとともに、手の感触やナイロン袋の内側の変化などを観察し、記録させる。 ・右手に綿の布、左手にポリエステルの布を入れ、再度観察させる。 ・観察の結果をふまえ、綿とポリエステルの布で作られている衣服を想定し、その衣服についての自分の考えを書かせる。	実験の結果をまとめるとともに、繊維の性質の違いや衣服の特徴を記入している。（工夫・創造）

繊維の性質の一つである吸湿性についての実験を行った。この実験は、身近な材料を使用したもので、生徒一人ひとりが変化の様子を手軽に体感できるという利点があった。方法としては、ナイロン袋に手を入れ、綿とポリエステルの布を手の平に置き、５分間密閉してその様子を観察した。およそ数分間でナイロン袋の内側に変化が見えはじめ、また手の平の状態の変化も感じられるなど、生徒は興味を持って取り組むことができた。実験中にも、「ナイロン袋が白くくもってきた」「手が暑い」「べとべとしてきた」などの声が教室のあちこちから聞かれた。

写真３　湿度を測っている様子

また、ワークシートには「ポリエステルは手を入れた時もうすでに温かかった。ナイロン袋がだんだん白くなってきた。手はだんだん温かくなってきて少しべとべとしてきた。手を袋から出した時、涼しかった。綿は少し温かくなってきたけどべとべとしなかったし、ナイロン袋が白くならなかった。袋から出した時はそんなに涼しくなかった」「綿は湿気を吸収していることが少し感じられた。布の種類によってこんなに違うんだと思った」「湿度がこんなに衣服と関係があるなんてすごいと思った」などの内容が記入されていた。

イ　視点②にかかわる実践（全４時間）

指導計画の作成にあたっては、学習指導要領（家庭分野）のＡ「生活の自立と衣食住」（３）衣服の選択と手入れの項目と、Ｂ「家族と家庭生活」（４）家庭生活と消費のア〈販売方法の特徴や消費者保護について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができること〉との関連を図った。はじめに、衣服の購入ポイントを中心課題として、布や繊維の性質について学習した。そして、衣服の素材についての関心を高め、表示を見ることの大切さに気付かせた。さらに、そのことを生活のどの場面で生かすかの応用場面を設定することを目的として、Ｂ（４）へと学習を展開した。通信販売を取り上げた理由としては、最近利用者が増

えているからである。「通信販売を利用したことがあるか」という質問にも、何人かの生徒が「ある」と答えた。「利用したことがない」と答えた生徒も通信販売の利用方法を知っており、手軽な購入方法の一つとして、これから利用する機会も多くなるだろうと考えた。さらに、通信販売は実際に衣服を手に取ったり試着したりできないので、衣服の特徴をとらえるために表示が最大限に利用されるであろうと考えたからである。

具体的には、長袖のＴシャツを扱った。カタログから４枚の写真を切り抜き、まずその写真だけを提示した。生徒は写真だけを見て分かること、写真からでは分からないことを書き出した。その後、それぞれの服の表示を改めて提示し、表示を見てはじめて分かることを書き出し、比較させた。

学習活動		指導内容	評価規準
A⑶	衣服の購入ポイント私のベスト５を記入する。	・衣服を購入する時の留意点を話し合わせる。	衣服を購入した経験を振り返り、私のベスト５を記入している。 （生活の技能）
	この後、学習活動として５種類のＴシャツを使っての購入体験、表示の見方と場所の確認、布の成り立ちや繊維の種類と特徴、繊維の吸湿性の実験を行う。		
B⑷	カタログを参考に表示を確認し、写真から受ける印象との違いをまとめる。	・通信販売の長所、短所を説明する。 ・写真を見て分かること、分からないことを書かせる。 ・表示を見て分かることを書かせる。	表示の活用方法をワークシートに記入している。 （生活の技能）

ワークシートには、「通信販売での表示の見方が分かった」「通信販売の時も店で買う時も表示をしっかり見ようと思う」の感想があった。また、「今自分が着ている服に使われている素材は、利用方法が合っているからこの素材なんだと思うと興味がわく」や「布の素材についてもっと知りたいなあと思った」という感想が見られた。

ウ　視点③にかかわる実践

(ｱ)　ワークシートにおける評価の工夫

第１時と第４時に「衣服の購入ポイント私のベスト５」を記入させた。そして、両方を比較させ、思ったことや考えたことを書かせた。

「まず、デザインとサイズ。それから３番目に生地を見ることにした」「表示も勉強して大事だと思った。だから前は全然考えていなかったけど、今は４位になった」「サイズが合わないと着られないし、好みのデザインでないと長く着られないし、授業で習った肌触りとか、吸湿性の良い服がいいと思った。やっぱり最後は値段かな」といった感想が見られた。その他にも順番が入れ替わっていたり、第１時のベスト５には入っていなかった表示や布地のことが挙げられていたり、またベスト５の中には入っていないが「表示や布地についても考える必要がある」と書いた生徒も見られた。ベスト５が変わった理由に「着心地が入ったのは、吸湿性や布の性質のことを勉強したから」「生地が４番から３番に上がった。理由は、勉強しているうちになるほどなあと思ったから」とあるように、衣服に対してこれまで生徒が持っていた価値観を変えることができたと考える。しかし、「布の性質は気にしない。安くてぴったりで気に入ったらそれでいい」といった、表示や布地については関心を示さない感想も見られた。吸湿性の実験時には綿とポリエステルの吸湿性の違いを理解しているようであったが、ベスト５は前後で全く変わっていない生徒もいた。このことから、そ

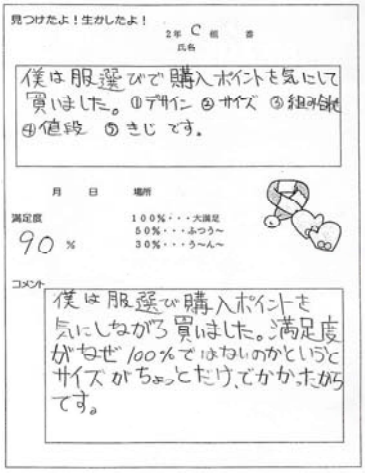
れぞれの生徒が生活の中で経験的に蓄積してきた価値観は、かなり固定的であると感じられた。

(ｲ)　自己評価カードにおける評価（第２時・第４時に記入）

自己評価カードに〈ＨＥＬＰ〉という項目を設け、生徒の疑問や質問を記入させた。

記入事項には、「天然繊維のことは分かったけど、化学繊維のことを詳しく知りたかった」「混紡糸はどのくらい種類があるのですか」「綿とポリエステルの実験をしたけど、他の繊維だと吸湿性はどうなるの」といった、授業内容に対しての質問が多かった。また、「綿は肌によいというイメージを持っていますが、それは正しいですか」「布の特徴を生かして他にどんなものに使われているのかもっと知りたいです」のような深まりや広がりのある質問も出てきた。

(ｳ)　実践ノートにおける評価



資料１　実践ノートの一例

全４時間の授業終了後、「見つけたよ！生かしたよ！」という実践ノートを配布した。このノートに一日の出来事や自分の行動を記入することで、生徒が学習で得た知識と技術を生かす場面に出会っていることに気付くのではないかと考えた。

実践ノートの感想には「表示を見て、色移りのため分けて洗濯しなければいけないことに気付き、買うのをやめた」「本体ポリエステル100％・リブ部分綿97％・ポリウレタン３％と書いてあったので、きっと温かいと思った。着てみるとやっぱりとても温かかった」「試着をしたら、サイズがちょっと違っているのに気が付いて、自分に合ったサイズの服が買えた」「以前に、手洗いしかできない服を買ってしまったことがあった。今回は、取り扱い絵表示を見て、洗濯機で洗濯できる服を選ぶことができた」などの感想があった。これらの感想からは、学習したことを生かしたことによって、よりよい買い方ができたという生徒の満足した姿が見られる。

また、「衣服の表示で洗濯機で洗える手入れのしやすい服を選んだ。混紡糸で綿65％・ポリエステル35％の物を買った。着てみると、動きやすくて手入れも簡単だった。でも色落ちしてしまったので、少し洗う時に失敗した。次は気を付けたい」という感想では、表示を活用して自分の着やすい服を選んでいるにもかかわらず、手入れの時に失敗してしまったことを挙げ、その失敗を次の機会に生かそうとする積極的な気持ちも読み取れた。

さらに、「手洗いの表示の服を洗濯機で洗ってみた。めちゃくちゃしわができて、人前で着れないようになってしまった」「洗濯物を手洗いした。絵表示通りにすると縮まなくてよかった。また、日陰に干すマークもあり、手入れの方法も様々で、けっこう大変だった」という感想では、学習したことをもう一度自分の手で確かめることによって、きちんと身につけていこうとする生徒の姿も感じられた。

４　検証授業の分析と考察

(1)　各視点にかかわる考察

視点①　体験的な活動を組み入れた指導の工夫により、学習内容を自分の生活と関連させて考える力が高まったか。

Ｔシャツの購入体験の授業（第１時）では、実物を使った体験活動を組み入れたの

で、自ずと生徒は繊維の種類や表示に着目するであろうと期待していたが、十分ではなく、途中で取り扱い絵表示や組成表示についての説明を加える必要が生じてきた。このことは、実物を提示するだけでは全員が課題意識を持てないことを示している。授業中に「綿100％の白いＴシャツはスポーツする時に着たい」という生徒の発言があった。このような発言を取り上げ全体に返すことで、自分が着用しているシャツとの関連を考えさせる発問の工夫により、課題意識を持たせる必要があったと考える。また、体験活動を「購入する」という条件に限定したことにより、生徒からの意見に偏りが見られた。「それぞれのＴシャツの良いところ、気に入らないところを挙げて、順位を付ける」といった条件から考えさせていけば、生徒から多様な意見が聞かれたのではないかと考える。つまり、体験的な活動を組み入れて終わりとするのではなく、学習内容をより生徒の生活実態に近づけるための手立てを考えることが大切であることが分かった。

以上のような反省点はあったが、吸湿性の実験（第３時）では、綿とポリエステルの布を同時に使用したことで、吸湿性の違いが体感できた。実験後のワークシートには、実験の結果から布や繊維の性質に興味・関心を示した意見や、布の特徴を的確にとらえた答えも多く見られた。これらは、生徒一人ひとりが体感した結果であり、５分間という時間の中での変化を十分に感じ取ったことになる。さらに、この実験結果を受けて、「実際に綿とポリエステルの衣服ではどうだろうか」という発問をした。生徒からは、「もし、服だったら綿の方は涼しいだろう。ポリエステルの方は暑いので防寒着にむいていると思う」「ポリエステルの服は最初はさらさら感がありそう。でも汗をかいたらべとべとしそう」「吸湿性のよい綿は、夏の方が着やすいと思う。ポリエステルの服だと吸湿性が少ないので暑そう」という感想があった。実際の生活と照らし合わせて考えさせることを意図した発問であったが、このような発言が聞かれたことは、その目的を達成できたと考える。

生徒の生活に即した内容を取り入れ、本物を提示し、五感を活用した活動をさせることは、興味・関心を引き出すきっかけにもなる。そして、興味・関心を持って取り組んだ学習内容を、教師が生活と結び付ける働きかけをすることで、生徒は生活と関連させて考える力が高まると考える。

視点②　生活を総合的にとらえた題材設定の工夫により、学習を生活に生かそうとする力が高まったか。

今回は、これまで単独で行っていた布や繊維の性質の学習と服選びの学習を一体化させた題材を設定した。そして、自分の衣服や着方に関心を持ち、衣服の機能や扱いに留意し、目的にあった衣服を購入することができる生徒の育成を目指した。

授業後の感想や自己評価カードには、衣服の素材や機能を意識して生活に生かしてみようとする意見があった。前述した「今自分が着ている服に使われている素材は、利用方法が合っているからこの素材なんだと思うと興味がわく」や「布の素材についてもっと知りたいなあと思った」という感想からもそのような姿が見られた。題材設定の工夫により、学習内容を生活のどの場面で生かすかを教師が示すことができた。そのことによって生徒はヒントを得て、実際にその場面に出会った時、スムーズに知識と技術を活用できたと考える。

視点③　評価を生かした指導の工夫により、自分の力で問題を解決しようとする力が高まったか。

生徒の思いや学習内容に対する感想をワークシートに記入させて、学習を振り返るきっかけとした。今回、第１時と第４時に記入した「私のベスト５」を比較することによって、生徒自身が授業前と授業後の自分の考えの変化に気付くとともに、どのようなことがきっかけで自分の考えが変わり、どのくらい学習内容を理解しているかを

知ることができたと考える。また、「私のベスト５」に書かれている感想は、自分の言葉を使って書けていた。これは、学習内容を一人ひとりが理解し、生活と関連させることができたから書くことができた感想である。さらに、肌触りや心地よさという表現は、実際に自分が体感したからこそ出てきた言葉であり、体験活動を取り入れたことの成果があらわれていると考えられる。

また、自己評価カードの〈ＨＥＬＰ〉の項目は、学習内容を振り返り、自分なりに整理して出てきた疑問や質問であり、生徒の「生活や技術への関心・意欲・態度」や「生活や技術についての知識・理解」の評価につながると考える。そして、ここに記入されていることは、今後の教材研究の方向性も示してくれていると考える。教師は自己評価カードに記入された言葉から、生徒の求めているものは何か、生徒がより理解を深め、生活に生かしやすいようにするために必要なことは何かといった授業改善につながるヒントを見出していかなければならない。

さらに、実践ノートの内容からは、今回の検証授業の内容も含めて、生徒は生活の中で知識と技術を生かしたり、学習したことを応用したりして、自分の生活をより豊かにしている姿が見られた。学習で得た知識と技術を実際の生活で生かす場面を積極的に設け、生徒の意識付けを図ることで、生活場面での活用につながっていくと考える。したがって、教師の働きかけは単発で終わるのではなく、年間を通して行われることが大切である。そして、学習内容に関することだけでなく、生活を見つめて気付いたことを実践ノートに書き留めさせるなどの指導の工夫が必要であると考える。

最後に、「授業で習ったことを生かして洗濯していると、母が、『色の濃い衣類は裏返して洗うと色褪せにくい』とアドバイスしてくれた。そして、母は色の濃い服は単独洗いをしていた。授業と同じくらい母から学べることが多かった」という生徒の感想について述べてみたい。「授業で習ったことを生かして」という部分からは、授業の内容を理解して、生活に生かそうとしている姿が感じられる。そして、母親から生活の知恵を学ぶことで生活の工夫を知り、学習したことがより深まっている様子が読み取ることができる。この授業を通して、家族のすばらしさに触れ、学習したこと以上のものを感じてくれたのではないかと考える。

以上３つの視点からの考察を通して、指導者が生徒の生活実態を見つめ、生徒の実態に応じた題材や指導法を工夫することによって、生徒が学習で得た知識と技術を生活の中で生かそうとする姿につながっていくことを確信した。

(2)　年間指導計画の作成

分析と考察をもとに、中学校における３年間を見通した学習指導計画案を立てた。

まず、題材を開発・改善するにあたっては、学習指導要領に示された内容に漏れがないように内容確認表（表１）を作成し、生活を総合的にとらえるという観点から、可能な範囲で内容や項目の枠を超えて題材を設定した。

学習指導計画としては、１年生では、生徒の身体の成長期に合わせ、食生活の大切さに気付いてほしいと考え、食を中心とした題材を設定して学習を行う。さらに、身近な家庭の仕事としての衣に関する題材を続けて学習する。そして、２年生の後半では、中学生として自分や自分の周りの人々にも目を向け、家族や家庭に対して興味を持ち、周りの人に支えられて生活していることに気付かせたいと考え、家族と家庭生活の題材を設定する。なお、住については、３年間の家庭科学習のまとめと関連させた題材を設定し、具体的な家庭生活像を考えることで、生活者としての自覚を持たせたい。また、体験的な活動をすべての題材で取り入れ、生活における実践につなげていきたい。

評価については、学習の到達度を明確にした評価規準をすべての題材で作成し、学習のねらいを具体化していくとともに、評価の方法や場面を位置付けていきたい。そしてどの題材の指導においても、自己評価カードや実践ノート等を利用しながら生徒の姿をしっかり見つめるようにしていきたい。

学習指導計画案（第１学年35時間　第２学年35時間　第３学年18時間）

学年	時間数	題材名	学習目標及び指導内容（太字は体験的な活動を示す）
1年	6	食生活を考える	自分の食生活に関心を持ち、五大栄養素について理解する。 食生活にかかわる環境問題について考えることができる。 **インターネット、新聞などを使って環境に関するレポートを作成する。** **水の働きについて理解し、生徒の身近な清涼飲料水を使って、糖度実験をする。**
	8	シチューを作ろう	生鮮食品について理解する。 調理の安全と衛生について理解する。 **シチューの調理実習を通して、食材の様々な切り方を学習する。**
	7	魚料理を作ろう	加工食品について理解する。 魚の調理上の性質を理解し、作業の能率を考え、計画を立てることができる。 **魚のさばき方を視聴し、魚料理の調理実習をする。**
	7	肉料理を作ろう	中学生に必要な１日分の栄養を満たす献立を考えることができる。 肉の調理上の性質を理解し、作業の能率を考え、計画を立てることができる。 **中学生の１日分の献立を立てる。肉料理の調理実習をする。**
	7	伝統料理を考える	伝統料理を理解するとともに、学習したことを取り入れて、手軽にできる料理を考えることができる。 **いろいろな地方のおせち料理やお雑煮をＶＴＲなどで視聴する。** **我が家のおせち料理や定番おせち料理の中から、簡単なおせち料理とお雑煮づくりを実習し、会食する。**
2年	6	自分らしく着よう	目的や個性に応じた着用を工夫することができる。 **色見本を使って自分に似合う色を探したり、人に与える印象を考える。** **ＴＰＯを考えながらデザイン画を描く。**
	4	上手な服選び	衣服の表示について理解する。 布や繊維の性質を知り、衣服材料に応じた日常着の適切な手入れと補修ができる。 **Ｔシャツの購入体験をする。** **吸湿性の実験をする。学習したことを生かして、衣服を購入する。**
	6	小物作り	**小物作りを通して縫い方（まつり縫い・ボタン付け）を実践する。**
	6	保育所訪問	幼児との触れ合いを通して、幼児の生活に関心を持つ。 **事前に、幼児の観察や保育所の施設での観察項目を持たせ、保育所訪問をする。**
	7	幼児の発達について考える	自分の成長と周りの人々とのかかわりについて知る。 幼児の心身の発達について考え、幼児とのかかわり方を工夫できる。 **「自分の現在・過去・未来」のワークシートを記入することによって自分が成長してきた過程や成長にかかわった周りの人々のことを知る。** **ウェビングの手法を通して幼児の身体や心の発達、基本的生活習慣、幼児の遊びについて学習する。**
	6	家庭や家族について考える	家庭や家族の機能について知り、家族関係をよりよくしていく方法を考えることができる。 **班でのロールプレイを通して、家族との会話や家庭での場面を想定しながら、自分や周りの人々の思いや立場を考える。**
3年	6	賢い消費者になろう	販売方法の特徴や消費者保護について知り、生活に必要な物資、サービスの適切な選択購入及び活用ができる。 **ビデオなどを視聴して、いろいろな販売方法について知る。**
	12	夢の一人暮らし	住居の機能を知るとともに、よりよい住まい方を工夫する。 **一人暮らしをするために必要な家や家具、電化製品を調べる。** **住居を維持していくために必要なことを考え、快適に住まうための方法を考える。**

年	題材名 ＼ 内容と項目等	A生活の自立と衣食住													B家族と家庭生活								
		(1) 中学生の栄養と食事			(2) 食品の選択と日常食の基礎			(3) 衣服の選択と手入れ			(4) 室内環境の整備と住まい方		(6) 食生活の課題と調理の応用		(1) 自分の成長と家庭や家族とのかかわり	(2) 幼児の発達と家族		(3) 家庭と家族関係		(4) 家庭生活と消費		(5) 幼児の生活と幼児との触れ合い	
		ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	イ		ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ
1年	食生活を考える	○	○																				
	シチューを作ろう		○	○	○	○	○					○											
	魚料理を作ろう		○	○	○	○	○					○											
	肉料理を作ろう		○	○	○	○	○					○											
	伝統料理を考える	○	○	○	○	○	○					○	○	○						○			
2年	自分らしく着よう							○	○														
	上手な服選び								○	○										○			
	小物作り									○													
	保育所訪問															○	○					○	○
	幼児の発達について														○	○	○						
	家庭や家族について														○			○	○				
3年	賢い消費者になろう																			○	○		
	夢の一人暮らし						○			○	○	○						○	○	○	○		

※上記のアイウは各項目の指導事項を示す

表１　内容確認表

５　研究のまとめ

検証授業を進める中で、これまでは気付かなかった生徒の姿を見ることができた。特に実践ノートでは、学習したことを積極的に生活の中で生かしている姿を見ることができた。また、生かしている場面を思い浮かべることができるような感想も多かった。

学習内容と生活実践を結び付けたことによって、生徒なりに得たものも大きかったと確信している。授業中に課題に気付いた生徒は、課題意識を持って生活における実践につなげることができた。また逆に、実践したことではじめて課題に気付いた生徒もいた。生徒一人ひとりによって生活経験等の違いはあるものの、このような成就感が日常生活を自らの力で工夫し、課題を解決していこうという生きてはたらく力になると考える。

今後、先に立てた３年間の指導計画案をもとに授業を行い、内容の吟味を重ねていきたい。そして、衣食住を中心とした自立に向けた取り組みを進めながら、家庭の機能を見つめ、家族とのかかわりの中で、生徒が自立と創造を目指していくためにどのような授業改善を行えばよいかという研究をさらに深めていきたい。

〈参考文献〉

・文部省　『中学校学習指導要領　技術・家庭編』　(1999年)

・川崎市総合教育センター紀要　『生活に生かす力を育てる家庭、技術・家庭科の学習』　(2002年)

・岐阜女子大学紀要　『小学生における家庭機能の認識と家庭科教育に関する研究』　(2002年)

・河野公子編著　『新しい時代の学力づくり授業づくり　資質・能力を育てる中学校　家庭分野編』　(2002年)

・河野公子編著　『新しい評価の進め方　評価規準・評価方法の工夫改善　中学校　家庭分野編』　(2003年)